

ICT 新事業創出推進会議に当たっての抱負や議論に期待すること

2013 年 12 月 25 日

(株) NTT データ 木谷 強

これまでの ICT 成長戦略会議において社会課題の解決に向けた検討がなされ、新たな付加価値産業の創出を実現するためのビジョンと戦略がまとまった。これを受けて、本会議は戦略を具現化する役割を担うものと認識している。本会議の構成員として、革新的な ICT 新事業創出に向け、実証実験にとどまらない「持続する事業実現」のための枠組みを作りたい。

社会課題解決のためには、一定規模・期間にわたる実証実験が不可欠である。実証実験には以下の目的があるが、どれが欠けても革新的かつ持続的な事業は実現できない。

- ・ 技術的、経済的実現性の確認
- ・ 社会的なアクセプタンス → ルール作りが重要
- ・ ビジネスモデルの確認 → これが一番難しい

そこで、枠組みを検討するポイントとして以下の 3 点を提案したい。

1. データ利用に関するルール作り

ビッグデータを扱う際のガイドラインを定め、どこまでが利用できるデータなのか、国民からコンセンサスを得る（これは本会議外での議論に期待）。

2. ICT 共通基盤の構築

ネットワーク基盤レイヤとアプリケーション共通処理レイヤが揃ったクラウド基盤を構築し、各種アプリケーションのプラットフォームを安価に提供する。基盤を利用するアプリケーションに対して洗練された API も提供する。

3. 革新的サービスの実現

省庁は実証の場とデータを提供し、革新的アイデアを具現化する舞台を設定する。そのうえで提案を募り、優れたプロジェクトを採択する。実証の場とデータが利用できることから、実証実験の費用は参加者の手弁当でもよい。コンテスト形式でアイデアを募ることも有効である。東京オリンピック向けのエネマネや交通最適化などのサービスがまずは候補となる。

以上